

目次

■まえがき	1
■編集方針・凡例	2

序章 総説

§ 1 はじめに	9
§ 2 前史	10
§ 3 日本帝国主義の形成	16
§ 4 日本帝国主義の成立	19
§ 5 全般的危機の深まり	29
§ 6 結 び	34

第1章 第1次大戦と重化学工業

*資料

1-1 簇生せる全国の戦争工場	39
1-2 戦時中に於ける本邦造船業	42
1-3 欧洲大戦中に於ける本邦船舶及造船	44
1-4 往時を語る	54
1-5 製鉄所第三期拡張ノ要旨、内国製機械ト外国製機械トノ重要ナルモノ調	55
1-6 鞍山製鉄所の特性と日本製鉄界に於ける地位	56
1-7 基礎工業確立の必要	59
1-8 日本に於ける鉄道車輛及び部分品製造工業の現況に就て	61
1-9 池貝式旋盤に就て	63
1-10 自動車補助法の精神	65
1-11 工作機械展覧会審査概評	66
1-12 主なる製品と失敗の体験	68
1-13 本邦電解曹達工業に就て	71
1-14 化学工業博覧会審査報告	73

第2章 産業構造の変容と技術政策

*資料

2-1 わが国鉱業の企業形態、経営組織の変遷および企業の集中	89
2-2 原動力の転換——工場電化の確立	93
2-3 工業ノ発達助長ニ関スル件	96
2-4 機械工業発達政策	99
2-5 国際貿易と鉱業政策	102
2-6 鉱山変災予防調査会の設立を促がす	106
2-7 化学工業調査会の第1回答申	107
2-8 コールタール蒸溜工業振興に対する答申書	110
2-9 鉄鋼の独立自給策に就て	112
2-10 工場法に就て	116
2-11 経済調査会および臨時産業調査局設置の趣旨	121
2-12 戦時ニ発達シ又ハ新ニ興起シタル工業ヲ戦後ニ於テ維持継続セシムル方法	125
2-13 製鉄業調査会答申	128
2-14 製鉄業に関する合同	130
2-15 衆議院における技術教育政策論議	133
2-16 化学工業政策に関する質問演説ならびに答弁	136
2-17 軍需工業動員法と軍事産業統制の端緒	142
2-18 軍需工業動員法案に関する意見書	145

第3章 理工学研究機関の整備

*資料

3-1 東北帝国大学理科大学概況	150
3-2 明治専門学校の長崎中先生——思ひ出す事ども	153

3-3	化学研究所経過	155
3-4	恩賜財団済生会の設立	155
3-5	理化学研究所設立ノ趣旨	157
3-6	理化学研究所ノ事業ト産業界	159
3-7	理化学研究所の国庫補助増額申請	160
3-8	理化学研究所の研究成果と理化学興業株式会社の設立	161
3-9	東北帝国大学付属鉄鋼研究所説明概要	162
3-10	塩見理化学研究所設置の遺言について——塩見政次への弔辞	163
3-11	東京帝国大学付属航空研究所	165
3-12	伝染病研究所の所管変更	168
3-13	国立栄養研究所の設立	168
3-14	船舶試験渠に関する帝国議会予算委員会の質疑応答	173
3-15	内務省土木試験所の沿革と其の事業	174
3-16	民間工業研究機関	175
3-17	丸見屋商店試験部化学研究所	180
3-18	東京電気株式会社研究所	182
3-19	第一工業製薬株式会社試験部から研究部へ	185
3-20	芝浦製作所研究所の沿革	185
3-21	三菱製紙株式会社研究所	186
3-22	本邦に於ける化学の発達	187
3-23	研究機関の民衆化	190
3-24	日本式「キモノ」より西洋式「労働服」に至る経過(日本産業推移の経路)	191
3-25	啓明会の由来と事業成績	192
3-26	斎藤報恩会『事業年報第一』	194
3-27	科学研究奨励費に関する帝国議会予算委員会の質疑応答	196
3-28	研究奨励費の推移	197

第4章 米騒動と農業 199

*資料

4-1	大正七年の米騒動回顧	205
4-2	第一次大戦後における日本階級運動の批判的総観	207
4-3	米穀法に就て	214
4-4	小作争議の概要	215
4-5	国土の開発	218
4-6	人口と食糧問題	219

4-7	水利並に小作関係に関する答申案	220
4-8	農業水利に関する通牒と法案	221
4-9	用排水幹線改良に対する国営及び国庫補助増額に関する建議案	221
4-10	水利問題を貧農の立場から闡へ	222
4-11	農村問題対策の一として農用器具機械改良の急務	223
4-12	農業用小型発動機発明考案懸賞募集	227
4-13	国立農具研究所設置に関する建議案	228
4-14	農事電化の沿革と未来の展望	229
4-15	米麦品種改良ニ関スル参考資料	231
4-16	品種改良の意義	232
4-17	主要食糧農作物品種改良事業の農業生産力及農産物生産費低減に及ぼしたる影響	235
4-18	養蚕家救済運動に関する決議	239
4-19	蚕品種の改善統一に関する建議案等	240
4-20	蚕糸業の統制に関する建議案	241
4-21	養蚕界の現況と科学の力	241
4-22	肥料改良奨励規則、施肥標準調査施行方法	242
4-23	肥料政策に対する意見	244
4-24	科学の進歩と農業の発達	246

第5章 第1次大戦後における技術政策 249

*資料

5-1	技術と技術政策	256
5-2	機械工業発達助長案	258
5-3	戦後鉱業経済に関する施設の概要	265
5-4	製鉄業振興策	266
5-5	メートル系度量衡採用に関する報告演説	268
5-6	工業品規格統一事業の概要	272
5-7	科学的価値に立脚せる徹底的産業愛国運動の提唱	276
5-8	商工省設立とその機構	278
5-9	国際経済戦争を通じて見たる我国産業の発達を阻害する時弊九ヶ条	280
5-10	工業研究及び試験機関発達助成策	285
5-11	染料工業政策確立の必要	286
5-12	電化政策樹立の必要	289
5-13	軍需工業動員に就て	293

5-14	政府の工業研究奨励経過	299
5-15	商工審議会審議要目	302

第6章 工業地帯の形成と社会政策 305

*資料

6-1	猪苗代水力電気株式会社土木工事	318
6-2	欧洲戦乱の電気事業に及ぼしたる影響と戦後の対策	320
6-3	世界最高圧十五万四千ヴォルト送電	321
6-4	富山県下電燈争議経過	323
6-5	電気及瓦斯争議の社会的意義	325
6-6	汽力を補助とせる場合の発電水力の経済的利用	327
6-7	都市計画研究の必要	329
6-8	都市計画に関する法制	330
6-9	農村の工村化	331
6-10	都市計画並に区画整理に関する決議	334
6-11	不良住宅地区改良事業の沿革	334
6-12	煤煙防止運動の沿革	336
6-13	金属鉱業研究所の設立に関する決議	339
6-14	コットレル特許組合の組織	340
6-15	工場公害問題	342
6-16	工場公害問題——工場風景	344
6-17	岐阜県荒田川流域ノ汚染被害防止ニ関スル調査報告	345
6-18	炭坑爆発予防に関する決議	347
6-19	鉱山病「ヨロケ」保護に関する決議	349
6-20	呼吸器病に関する決議	350
6-21	婦人及び幼年労働者の夜業禁止に関する請願書	350
6-22	工場に於ける女子及年少者の深夜業禁止に就て	352
6-23	深夜業廃止の影響調査	354

第7章 関東震災とその後 357

*資料

7-1	本邦各方面に起るべき今後の地震——楽観的な地震予想	361
7-2	气象台の揭示板	362
7-3	震災調査日誌(9月1~3日)	365
7-4	破壊された東京市——科学の威力必	

ずしも大なりとするを得ない 366

7-5	今村博士の予言	367
7-6	一千九百二十三年九月東京に於ける大地震による火災	367
7-7	横浜市ニ於ケル建物被害統計	368
7-8	震災及びそれに伴へる火災に依る建築物被害の統計	371
7-9	震災調査委員会記事	374
7-10	工場機械器具其他諸材料ノ損害	376
7-11	船橋送信所打電通信文一束	377
7-12	大震雜感——流言蜚語と科学者	377
7-13	地異印象記	379
7-14	今回の大震火災と精神病	380
7-15	地震研究の特殊機関設立に関する建議案	381
7-16	東京復興に関する意見	382
7-17	帝都復興計劃に関する工工会の建議案	383
7-18	帝都復興計劃についての帝国議会における質疑応答	387
7-19	帝都復興の財政経済的觀察	395
7-20	区割整理改善意見書	399
7-21	東京の高速鉄道網に就きて	400
7-22	同潤会経営住宅の業績	405
7-23	復興完成の日の幹線道路視察記	406

第8章 軍備縮小とその矛盾 409

*資料

8-1	陸軍の根本改造	416
8-2	労農赤軍の日本陸軍觀	419
8-3	眼鼻の付いた陸軍整理——陸軍軍縮案	419
8-4	陸軍新旧戦法の比較	421
8-5	我国に於ける航空機製造工業の現況	423
8-6	火砲彈薬用信管の発達	426
8-7	欧洲大戦前後に於ける帝国海軍軍備の概況	427
8-8	我が八八艦隊と軍備制限後の残存艦隊	429
8-9	軍艦設計に対する欧洲大戦の教訓	430
8-10	軍備制限に伴ふ工業界の対策案	432
8-11	倫敦軍縮會議の問題となれる潜水艦と巡洋艦	435

8-12	軍隊内の活動について……………	438
8-13	卑怯無為なる自称知識階級——アイ ンシュタインとの問答……………	440
8-14	日本訳『戦争の生物学』序文……………	444

10-8	理学研究と工業研究……………	506
10-9	尚科学は国是であらねばならぬ……………	509

第9章 国際的交流と科学者の職業的

自覚……………	447
---------	-----

*資料

9-1	学術研究事業遂行国際組織に関する 聯合諸国会議……………	449
9-2	第三回汎太平洋学術会議……………	452
9-3	第三回汎太平洋学術会議の結果に就 ての感想……………	453
9-4	文教八つあたり——科学政策の貧困……………	455
9-5	万国工業会議と世界動力会議……………	457
9-6	技術家結束の機運……………	461
9-7	技術に関する行政機関の根本的改革 に関する建白……………	463
9-8	関東庁土木課長の事務官新任に關す る反対決議……………	463
9-9	農商務省に於ける技術官の地位並待 遇の現状……………	464

第10章 大正デモクラシーと科学技術 …… 469

*資料

10-1	過去を追想して将来に及ぶ……………	473
10-2	航空機講話……………	478
10-3	丘博士の生物学的的人生社会観を論ず……………	483
10-4	田辺博士の『科学概論』を読む……………	492
10-5	研究と科学教育……………	495
10-6	ラッセル教授の印象……………	496
10-7	アインシュタイン教授の講演……………	500

第11章 合理化運動の開始…………… 513

*資料

11-1	学理的事業管理法……………	515
11-2	無益の手数を省く秘訣……………	516
11-3	能率増進法……………	518
11-4	日本産業能率研究所ノ近況……………	519
11-5	労働科学に就いて……………	520
11-6	科学としての工場管理法……………	523
11-7	日本能率聯合会創立総会議事録……………	526
11-8	機械工場用工作機械の撰択に就て……………	528
11-9	一路能率増進へ……………	532
11-10	工程管理に就て……………	533
11-11	日本産業の合理化……………	536
11-12	資本主義の修正……………	538
11-13	『合理化』は金解禁の後始末に非ず……………	541
11-14	産業合理化に関する答申……………	544
11-15	臨時産業審議会における浜口首相挨拶……………	545
11-16	臨時産業審議会への諮問事項とその 答申……………	546
11-17	我国工業の合理化……………	551
11-18	臨時産業合理化局生産管理委員会ノ事 業ニツイテ……………	553
11-19	不景気対策としての産業合理化と国 産愛用……………	554
11-20	産業合理化の目的と技術……………	555

■年表……………	559
----------	-----

■参考文献目録……………	565
--------------	-----

■索引……………	573
----------	-----

